

.....

.....

.....

1

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[26]歳、 勤続年数[4]年、 現場経験年数[4] 年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [隊員]
○当事者 B	年齢[40]歳、 勤続年数[20]年、 現場経験年数[20]年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [隊員]
○当事者 C	年齢[39]歳、 勤続年数[20]年、 現場経験年数[20]年、 階級[消防司令補]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [車長]
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

1.1. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	A、B、C、他 2 名	三連はしごを活用した消防訓練を実施。	
経過 2		予告指令	
経過 3		火災指令	
経過 4	C	A、Bに三連はしごの撤収を下命。	
経過 5	A	三連はしごを確保。	
経過 6	B	三連はしごを縮梯。	
経過 7	A	三連はしごが転倒しそうになり、取手部分を持ち直した際に、はしご可動部に手が入った。	
経過 8	A	受傷。	
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

避難・退避がうまくいかなかった。資機材の操作がうまくいかなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

訓練中に全隊が出動する指令があった場合でも、全隊員が撤収および車両積載等を実施し、その後、自隊の出動準備にとりかかる。 災害発生時の撤収および車両積載等の任務を明確にしておく。	訓練開始前に、
---	---------

○装備・資機材の対策について

取手部分の改良を実施し、はしご可動部分に手指が入ることを避ける。（署所）

○活動環境の対策について

訓練中の出動を想定した、撤収訓練を実施し、任務分担を確認しスムーズな撤収がおこなえるようにする。 (署所)
--

○指揮・情報伝達の対策について

訓練中の災害発生時の撤収に際しては、訓練指導者がリーダーシップをとり、適切な指導の下、組織的な活動をとる。（署所）

○負傷事故事例：三連はしご撤収時における確保隊員の負傷事故
(同様の体験は、初めて体験した。)

(06F0054)

・発生日時：平成18年10月 午前11時頃

経過	現場の状況	隊員A	隊員B	隊員C	備考
		隊員／消防士長 ・年齢 26 歳 ・勤続 4 年 ・現場 4 年 ・同様の活動:頻繁	隊員／消防士長 ・年齢 40 歳 ・勤続 20 年 ・現場 20 年 ・同様の活動:頻繁	車長／消防司令補 ・年齢 39 歳 ・勤続 20 年 ・現場 20 年 ・同様の活動:頻繁	
1	場所:署前訓練場 天候:晴れ	三連はしごを活用した消防訓練を実施。			出動準備中
2	予告指令	<pre>graph TD; A[三連はしごを活用した消防訓練を実施。] --> B[A、Bに三連はしごの撤収を下命。]; B --> C[三連はしごの撤収]; C --> D[三連はしごを確保。]; C --> E[三連はしごを縮梯。]; D --> F[三連はしごが転倒しそうになり、取手部分を持ち直した際に、はしご可動部に手が入った。]; F --> G[受傷];</pre>			早く撤収したいというあせりがあった。
3	火災指令				
4					
5					
6					
6					
7					
8					

◎負傷事故が起きたのはどうしてだと思うか？
○行動の実行に問題があった。 ・避難・退避がうまくいかなかった。 ・資機材の操作がうまくいかなかった。

◎負傷事故が起きた背後要因
(心理・体調について) ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。

◎負傷事故の対策例
注意力欠如、焦り等の対策: 訓練中に全隊が出動する指令があった場合でも、全隊員が撤収および車両積載等を実施し、その後、自隊の出動準備にとりかかる。 訓練開始前に、災害発生時の撤収および車両積載等の任務を明確にしておく。 装備・資機材の対策: 取手部分の改良を実施し、はしご可動部分に手指が入ることを避ける。(署所) 活動環境の対策: 訓練中の出動を想定した、撤収訓練を実施し、任務分担を確認しスムーズな撤収がおこなえるようにする。(署所) 指揮・情報伝達の対策: 訓練中の災害発生時の撤収に際しては、訓練指導者がリーダーシップをとり、適切な指導の下、組織的な活動をとる。(署所) そのほかの対策: 消防活動は、現場のみでなく訓練においても危険が伴うということを念頭におき、活動をおこなう。(個人)